たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	67.7%
海外株式	24.1%
現金（円・$）	8.2%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	25.2%
海外株式	11.5%
現金（円・$）	-44.7%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。

※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
1.5%	10.0%	9.0%	16.1%	17.0%	1687.37%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	91.8%
現金	8.2%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	67.7%
アメリカ	24.1%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
資本財・サービス	31.22%
一般消費財・サービス	26.59%
金融	14.35%
情報技術	9.40%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	17.72%
2	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	資本財・サービス	15.43%
3	ディップ 2379	日本円	日本	一般消費財・サービス	10.18%
4	ServiceNow, Inc NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	9.40%
5	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	8.40%
6	ヒューリック 3003	日本円	日本	金融	8.02%
7	MSCI Inc. MSCI	米ドル	アメリカ	金融	6.33%
8	シンメンテHD 6086	日本円	日本	資本財・サービス	5.61%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	26.30%
5000億～1兆円未満	9.98%
1000億～5000億円未満	15.78%
1,000億円未満	47.94%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

今月の当ファンドはマーケット全体が好調を維持する中で、辛うじてプラス成長を維持することができました。市場平均を大きく劣後するパフォーマンスをうけて反省した運用責任者のたけうまは真面目に決算に目を通す作業を再開しています。まずは市場平均並みのパフォーマンスの実現に向けて邁進しています。

先月から信用口座で保有していたNTTは月末にかけて順調に値を戻していましたが、政府の「売り出しするかも（ﾃﾍﾟﾛｯ」の意向で崩壊。あえなく極大の損切りとなりました。なんて余計な取引をしてしまったんでしょうか。全くやる必要がなかった取引なので反省するしきりです。資産比で0.5％程度マイナスインパクトです。また先月までに減らしていたシンメンテを決算通過後に若干買い戻しています。

同じく信用口座で保有していたヒューリックは決算通過後と日銀のYCC修正後にファイナル買い増しをしたのち現引きして現物ポートフォリオ入りさせました。オフィス関係のバリュエーションが低く見られている点（好立地のオフィスだけ需要が残る）、既存好立地を活かした内部成長がメイン成長ストーリーである点（土地を持っていない新興にはできない戦略）、展開する高級旅館事業に期待している点（星野を支持する世代がいなくなったあと高級旅館の代名詞になる予感）、近々の借り換えでも短→長に借り換えできてる当たり前の信用力を評価しました。また建て替えによるバリューアップは保有銘柄のオカダアイヨンの成長ストーリーとも密接にかかわりあうのがいいですね。

米国株ではMSCIとサービスナウの決算がありました。MSCIは決算通過後に大幅高。個人的には世界的な株安でずっと足を引っ張っていた資産運用報酬が底打ちの兆しを示していること、成長分野のESGの成長率下落が下げ止まりの様子であること、株安の間収益を引っ張っていた先物オプションが減速したかわりに日本株を中心に需要が大きく伸びたことが評価された結果であると考えています。またサービスナウは各ガイダンスをすべて超過する好決算だったにも関わらず当日の株価は伸びなやんだもののその後は好調な水位となっています。クロスセル・アップセルが相当進んでいるようで安心感があります。エヌビディアとアクセンチュアとの提携がどの程度収益に貢献してくるかはまだ難しいですが、現状でもナウプラットフォームにおいて生成AIの活用はかなり浸透しているようなのでこれを加速してくれる格好になれば期待できるだろうと考えています。

その他ではYCC修正後に三菱UFJを信用にて買っています。

まだ1Q決算もこれからが本番ではありますが期初時点の不透明感の多い状況よりは改善してきている様子が確認できているので外部要因に惑わされることなく日本株だけは堅調に推移してくれることを願ってやみません。というのが本音ですが、お祈りしたところでパフォーマンスは改善しないので来月はしっかりと決算に目を通して銘柄をピックアップしていきます。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。